

◆第6回 テーマ別読解演習「学校空間」②／物語文

今回も物語文の学習で、テーマは学校空間です。文章も長くなっているのです、最後まで読み切る集中力が重要です。特に登場人物にはチェックをいれて、人間関係を明らかにしましょう。また、百字以内の長文記述問題の対応の仕方も学んでいきます。

⊙ 問三 具体化する問題です。傍線部の前後の出来事確かめます。

問七 百字以内でくわしく説明する問題です。傍線部に至るまでの登場人物の心情の変化を丁寧に追ってくわしく書くようにしましょう。

問九 「思い切り雑巾をしぼった」という表現に注意して選択肢をよく読みましょう。

ⓐ 問二 この理由記述も、出来事だけでなく、心情表現も書きましょう。

問五 比喩的な内容をわかりやすい表現になおす問題です。その比喩表現を使ってなにが良かったかを考えて、正しい選択肢を選びましょう。

問八 主題に関する問題です。文章全体の出来事をおさえて考えましょう。

宿題 問一 「値段まで」の「まで」という細部表現に注意して心情を読みとりましょう。

問四 具体的な出来事を書きましょう。登場人物の会話もヒントになっています。

◆第7回 テーマ別読解演習「学校空間」③／物語文

前回到続き、今回も物語文の学習で、テーマは学校空間です。⊙では、主人公の心の成長が描かれている典型的な作品ですが、中にはⓐのように、ゆがんだ「友達づきあい」を描いた作品もありますので、注意しましょう。今回特に注意してほしい問題は、以下の通りです。

⊙ 問二 指示語に注意すると同時に、強調することで、どのようなことが読み取れるか考えます。

問五 単なる具体化の問題ではありません。設問の聞き方の「どのような意味がこめられていますか」に注意しましょう。

問七 理由記述です。傍線部までの出来事をたどって答えを作成しましょう。

ⓐ 問二 比喩表現を具体化する問題です。まずは「だれ」をはっきりさせましょう。

問六 これも比喩表現の具体化の問題です。「亡霊」という表現の意図を考えましょう。

問七 理由記述の問題です。単に出来事だけでなく、それによってどのようなようになったのかまでふみ込んで書きましょう

宿題 問七 「考えられますか」という聞き方は、はっきり文章に書いていないので、根拠をもとに類推して答えを書くようにします。

問八 文章の特徴を説明した文章については、消去法を使って考えます。

◆第8回 入試問題研究②

今回は入試問題研究です。入試問題を解くのですが、時間を計って、解答用紙に書き込みます。入試問題なので、前回同様、難問に時間をかけ過ぎずに、問題選定をしながら解く実践的な学習をします。

今回も文章題が2題と語句が1題です。㊦から取り組む必要はありません。全体を見わたして、解きやすそうな問題から取り組みましょう。解答には配点を書いてあるので、WEBを見ながらマルつけをして、得点も出してみましょう。

㊦ 問二 比ゆのねらいをしっかりと覚えて選択肢から選びましょう。

問五 この問題も比ゆを具体化する問題です。

問十 正誤問題は、消去法を使い、本文の内容と照らし合わせながら考えましょう。

㊧ 問三 抽象を具体化する問題です。

問六 説明文では対比されて説明されることが多いので、何と何が対比されているかをおさえ、それぞれの特徴をおさえましょう。

問九 理由記述です。うまくまとめましょう。

・ Cの問題のように、与えられた条件をしっかりと覚えて上で考える問題には注意しましょう。

5年生後期で学習する単元は入試問題でもよく出題される単元が次々と出てきますので、しっかりととりくみましょう。

この講座は、日能研本科教室カリキュラムがベースになっています。本科教室で学んだことを深めることを目的にした講座となりますので、大切なことは、「本科教室をしっかりと理解した上で受講すること」です。この基礎にあたる部分を大切に、取り組むようにしてください。

動画の構成としては、まずは「例題」が各回3～4題収録されています。例題は動画を見ながら解法の手がかりとなる考え方を習得してください。例題の次には、練習問題として、例題の数値替えの問題が収録されています。機械的に数値を入れ替えて答えを出すのではなく、もう一度解法を確認しながら取り組むようにしてください。練成問題は、例題から派生した問題を中心に収録しています。このうち、例題から少し離れるタイプのうち、特に重要なものを動画で扱っています。

各回の学習の目安は以下の通りです。

◆第6回 規則性Ⅱ

数列の単元の中でも、周期に注目する数列がテーマです。今回は、問題文に規則がすでに示されている数列ではなく、自分で規則を見つけていく数列を中心に学びました。そのため、規則については皆さんが試行する中で発見していきましょう。

①「例題と練習問題」

例題1－周期のある数列

2問とも、よく出題される問題です。途中過程で計算まちがいをすることなく、正確に周期を導きだしましょう。

例題2－複数の周期①

赤は赤で、青は青で、黄は黄で周期があります。これらを最小公倍数で1つにまとめる作業が必要になります。そして、その新たな周期の中での規則は皆さんが作業していくことが必要です。

例題3－複数の周期②

のべの考え方を使いながら取り組みます。この問題では出席番号と1週あたりの人数がそれぞれの周期にあたりますね。それがちょうど重なるということは・・・と考えていきましょう。

例題4－複数の周期③

3の倍数は3ずつ増えていき、4の倍数は4ずつ増えていきますね。すると最小公倍数12ごとに周期ができることを理解してください。この問題では、「12で割ったときの余り」がくり返すことになります。数は増えていくことになるので、まちがえることのないように注意していきましょう。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習問題に取り組んで、答え合わせをしましょう。そのとき、間違っていたら、どこで間違えたかをよく理解して、再度解き直しをするということを徹底してく

ださい。疑問点があれば、再度例題の動画を見てみましょう。

②「練成問題」

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第7回 割合と比 I

比を習得すると、解くことができる問題が大幅に増加します。習得するまではなかなか手ごわい單元ですが、一旦身につくと、これほど便利なツールはありません。皆さんもしっかりと取り組んでください。今回は、よく出題される問題に取り組んでいきましょう。

①「例題と練習問題」

例題1－最簡形の利用

「5 : 2」という比を一旦具体数におきかえてみましょう。今回は50円と20円という最も簡単なモデルで考えてみて、実際の何倍であるかを考えることによって答えが導きだされます。

例題2－比の合成

3種類の比が登場しますが、同じ量を表わすものに注目して同じ比に合わせます。この感覚が非常に大切になりますので、注意しながら取り組みましょう。

例題3－狂った時計

正しい時計と狂った時計に進む速さの比はどの時間を切り取っても同じです。この関係を利用することが大切です。

例題4－狂った巻尺

1目盛りあたりの長さの比を正しく理解することができるのが大きなポイントです。当然ですが、少ない目盛りしかかかれていないと1目盛りあたりの長さが長くなり、多くの目盛りがかかっていると1目盛りあたりの長さが短くなります。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習問題に取り組んで、答え合わせをしましょう。そのとき、間違っていたら、どこで間違えたかをよく理解して、再度解き直しをするということを徹底してください。疑問点があれば、再度例題の動画を見てみましょう。

②「練成問題」

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第8回 割合と比Ⅱ

5年生の本科教室では出てきませんが、「ニュートン算」を学びます。増加分と減少分の2つの量の変化を追うこととなりますので、はじめは理解が進まないかもしれませんが、練習を積むことによって、必ず習得できる単元でもあります。線分図のかき方などを理解して取り組みましょう。

①「例題と練習問題」

例題1ーニュートン算①

「はじめの量」も「増加する量」も具体的に示されています。変化の様子をイメージすることでまずはニュートン算の基本をおさえていきましょう。

例題2ーニュートン算②

「はじめの量」は具体的に示されていますが、「増加する量」は示されていませんね。2つの状況の差に注目して取り組んでいきましょう。

例題3ーニュートン算③

「増加する量」は具体的に示されていますが、「はじめの量」は示されていません。例題2と同じように2つの状況の差に注目して取り組んでいきましょう。

例題4ー場合の数の応用

「はじめの量」も「増加する量」も具体的に示されていません。「増加する量」と「減少する量」をそれぞれ①や①のように比で考えていきます。2つの記号がでてきたら、それを1つにまとめることで基本のニュートン算へと変化していきます。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習問題に取り組んで、答え合わせをしましょう。そのとき、間違っていたら、どこで間違えたかをよく理解して、再度解き直しをするということを徹底してください。疑問点があれば、再度例題の動画を見てみましょう。

②「練成問題」

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。